

こどもを撮る技術

こどもの情景

Photographs of children
The art of photographing children

恵比寿ガーデンプレイス内
東京都写真美術館

www.syabi.com
TEL 03-3280-0099

開館時間=10:00~18:00(木・金は20:00入館は閉館の30分前)
※最新の開館情報はお問い合わせください
休館日=毎週月曜日(休館日が祝日・振替休日の場合はその翌日)
会場=東京都写真美術館3階展示室
主催=東京都 東京都写真美術館
協賛=凸版印刷株式会社
協力=株式会社講談社
観覧料=一般500(400)円/学生400(320)円/中高生・65歳以上250(200)円
※()は20名以上団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員、小学生以下
および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は85歳以上無料
交通機関=JR恵比寿駅東口より徒歩7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
当館には専用の駐車場がございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場
をご利用ください。

2011 7.16(土)~9.19(月・祝)

平成二十三年度 東京都写真美術館 コレクション展

平成二十三年度 東京都写真美術館 コレクション展

こどもの情景

こどもを撮る技術
Photographs of children
The art of photographing children

親はきっと誰でも、こどもの今を永遠に留めたいと思います。でも、こどもは静止してはいられません。これは江戸時代から変わることはないのです。写真が登場した19世紀中葉の技術は瞬間を切り取ることができず、静止することができなければ、画像はぶれてしまいました。それでも、世界初の写真方式であるダゲレオタイプの時代から、こどもを撮影する努力はされ続けています。写真技術の発展は感光材料の歴史であり、写真初期の技術において、人々はこどもをいかにじっと動かなくさせるかを考え努力し、こどもの姿を写真に留めたのです。

カメラを持つことが一般的でなかった19世紀、一握りの撮る人々は、様々な角度、視点、技術でこどものイメージを発信し続けました。

本展は、いかにしてこどもを撮影するかを作品から写真の歴史を辿って観ていきます。写真を撮影することのできる体験コーナーも特設し、こどもを中心に観る・撮るの両面から写真を楽しめる空間が広がります。ぜひカメラを持ってご来場ください。ご家族で楽しめる写真展です。

表面イラスト=あかびね まき

展示構成

Chapter1=写真技術史とこども
Chapter2=表現の中のこども
Chapter3=光で変わるこどもの写真(体験コーナー)

担当学芸員によるフロア・レクチャー

会期中の第1、第3金曜日午後2時より、担当学芸員による展示解説を行います。
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

おしゃべり鑑賞タイム

毎週金曜日 15:00~18:00
※フロア・レクチャー開催日はレクチャー終了後から閉館時間までとなります

写真のこどもに手紙を書こう。コンクール

課題作品の中から1点を選び、写真の中のこどもにメッセージを書きましょう。
応募資格=小学校低学年(1年生~3年生)/小学校高学年(4年生~6年生)
※くわしくはwww.syabi.comをごらんください。

公式ガイドブック

「こどもの情景」講談社刊 定価1890円(税込)
東京都写真美術館ミュージアムショップ ナディップX10にて限定発売

展覧会告知

「こどもの情景—原風景を求めて」2011年9月24日(土)~12月4日(日)



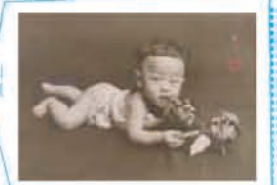
写真を撮るウーナ
1977年(11歳) 未だ失
わねる笑顔がある
ウーナ 8歳の
年/ジョナス・
メカス/1977年



縄跳びするマ
リー・ルー・ハロ
ルド・ユージン・
エジャートン/
1940年



麗不詳(小島朝雄
と家父)/小島朝
雄/1973年頃



愛い児/黒川翠山
/1900-1910年頃



マーガレット/ジ
リア・マーガレット・
キャメロン/1860-
1870年頃

東京都写真美術館 www.syabi.com

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 TEL:03-3280-0099
● 東京都写真美術館は、東京都写真美術館が運営する施設です。
● 本展覧会の開催に際しては、内容が変更となる場合があります。

